

活動名称 (40字以内)	伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く		
団体名等	大学院農学生命科学研究科附属演習林		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input type="checkbox"/> 面接
	<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		3 人
	<input type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
活動方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンラインを活用しつつ現地活動を行う <input type="checkbox"/> オンラインのみで活動を行う		
大学院学生	<input checked="" type="checkbox"/> 含む <input type="checkbox"/> 含まない		
参加資格等	学部学生及び大学院学生(申請時に提出する参加申請書により、意欲的に取り組めると主宰が認める者。)		
活動期間	2024/3/9(土)、10(日) ~ 2024/3/13(水) 4~5日間	主な活動予定場所	岡山県
目的	<p>炭と聞けばBBQなどに用いる燃料を想起するであろう。消臭剤を想う方もあろうか。その一方で、日本の伝統工芸で様々な樹種の炭をそれらの特性を活かした研磨に用いて来たことはあまり知られていない。漆器や蒔絵などの伝統工芸の完成品には一般も価値を認め注目していると思うが、それら伝統工芸を支える様々な炭があることはほとんど知られていない。そして、そういった炭たちの生産体制がどのような状況に置かれているか、一考する機会もないというのが時代の趨勢といった感がある。例えば駿河炭はアブラギリの炭であるが今では静岡県でこの炭が焼かれることはなく、福井県でほそぼそと焼かれているが、将来にわたって焼き続けられる体制ではないということなどは、この東京大学でもまず一顧もされることはない。</p> <p>もとより樹芸を標榜する演習林樹芸研究所は、アブラギリ林を有すること、それこそ駿河の国にほど近い伊豆にあることから、駿河炭を焼く体制を整え、学生にその意義を唱える教育プログラムの充実を図りたいという思いがあった。しかし、白炭を焼く新窯の設置が必要であるなど、ハードルは決して低いものではなかった。一方、岡山の伝統工芸木炭生産技術保存会では白炭を焼く算段はついていたもののアブラギリの入手に手詰まり感があった。情報ネットワークが発達した現代でなかったならば両者が出会うことは奇跡の様なめぐりあわせが無ければ不可能と言えそうだが、現代においてはこの出会いは必然のようにも思える。この様に始まった協力体制をいち早く東大生に還元したい、その思いからこの体験活動プログラムを立ち上げることにした。</p>		
具体的な内容 (800字程度)	一日目 午後 岡山城・岡山後楽園の見学 二日目 備前おさふね刀剣の里にて古式鍛錬・職方(刀鍛冶・塗師・金工師)見学と研磨炭体験 三日目 研磨炭製炭:岡山県苫田郡鏡野町富西谷の窯にて 白炭製炭体験 四日目 生産した研磨炭の検品 五日目 山林整備:岡山県加賀郡吉備中央町杉谷で炭材となるアカマツ植栽地の見学、枝打ち体験 ※二日目からの参加も可		
備考			
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)	その他*特記事項は以下に記載	
	交通費 35,000 円 宿泊費 4泊 24,000 円 その他 6,000 円 計 65,000 円	奨励金額 40,000円(予定)	
ウェブサイト等	伝統工芸木炭生産技術保存会 <a href="https://www.mokutanworks.com/">https://www.mokutanworks.com/</a> 笑楽窯 <a href="https://www3.hp-ez.com/hp/sumikama">https://www3.hp-ez.com/hp/sumikama</a>		